

潜在性副腎性 Cushing 症候群に関する研究

研究分担者 方波見卓行・聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院・副病院長
柳瀬敏彦・福岡大学医学部・教授

研究要旨

潜在性副腎性 Cushing 症候群の新診断基準を作成し、日本内分泌学会と合同で英語論文を公表した。現在、その普及・広報に努め、AMED、国際医療研究開発費の難治性副腎疾患研究班と連携し、患者登録データベース(レジストリ)を構築・開始した(例数;約1000例)。

A. 研究目的

作成した潜在性副腎性 Cushing 症候群(SCS)の新診断基準を国内外に発信、普及、広報すると共にその妥当性を検証する。

B. 研究方法

SCS の新診断基準を海外への発信については英語論文を作成する。また普及、広報については、2019年5月の日本内分泌学会学術総会でのシンポジウムに向け準備を行う。

検証に関しては、国際医療研究開発費・難治性副腎疾患の診療の質向上と病態解明に関する研究(ACPA-J、国立国際医療研究センター27指1402、主任研究者 田辺晶代医師)ならびに日本医療研究開発機構(難治性疾患実用化研究事業)・難治性疾患に直結するエビデンスの創出(JRAS、AMED 課題番号 JP18ek0109352、主任研究者 成瀬光栄医師)と連携し、患者登録データベース(レジストリ)を構築・開始する。

(倫理面への配慮)

各参加施設の倫理委員会で承認を得た後に研究実施した。

C. 研究結果

英語論文を作成し、Endocrine Journal に投稿・受理された(資料5)。

患者登録(レジストリ)については現在、800例(SCS約180例、非機能性腫瘍が約620例)である。

D. 考察

今後わが国でのSCSの診療実態を把握すると共に、新診断基準の妥当性検証を行う必要がある。

E. 結論

潜在性副腎性 Cushing 症候群の新診断基準を作成し、英語論文を公表した。さらに患者登録データベース(レジストリ)を構築・開始した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Yanase T, Oki Y, Katabami T, Otsuki M, Kageyama K, Tanaka T, Kawate H, Tanabe M, Doi M, Akehi Y, Ichijo T. New diagnostic criteria of adrenal subclinical Cushing's syndrome: opinion from the Japan Endocrine Society. Endocr J. 2018, 26; 65:383-93.

2. 学会発表

侯金成, 唐澤隆明, 飯ヶ谷嘉門, 栗原勲, 本間桂子, 今福俊夫「16年経過してサブクリニカルクッシング症候群が顕在化したACTH非依存性大結節性副腎過形成(AIMAH)の一例」第91回日本内分泌学会学術総会(2018.4、宮崎)
(2019年5月予定)

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）
分担研究報告書

方波見卓行、他 第 92 回日本内分泌学会学術総会シン
ポジウム 4、サブクリニカルクッシング症候群～最近の概念、動向、そして
最適なマネジメントについて我が国での動向

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし